海外大学の単位認定と獲得できる学位

”日本の大学に在籍しながら海外大学への留学”や”海外大学進学”を目指す高校生や保護者の方にとって、よくある疑問のひとつが「日本の大学在籍中に海外で受けた授業単位は、日本の大学で認められるのか?」「海外大学進学後どんな学位が取得できるのか?」という点です。この記事では、海外大学における単位認定の仕組みと取得可能な学位について、留学や海外大学進学を初めて考える方にも分かりやすく解説します。

【単位認定とは?—留学経験を無駄にしない仕組み】

単位認定とは、自校とは別の大学で取得した科目の単位を、自校の単位として認める制度のことです。これにより、留学期間中の学びをスムーズに進級や卒業に結びつけることができます。それぞれ詳細（留学する国、認定までにかかる期間や費用、申し込み方法）は大学ごとに異なるので、大学の学生課、または国際部など担当窓口を確認する必要があります。

—日本の大学在学中に単位認定が可能な主な留学パターン—

・交換留学（1学期～1年）

日本の大学に在籍しながら、留学先で取得した単位を日本の大学でも取得単位として認める制度。休学扱いにならずに卒業可能。留学可能な国、大学は、在籍大学によって異なる。

※日本の大学の学費を支払う。留学先の学費の支払いはなく生活費等のみかかる。

・認定留学（1学期～1年）

日本の在籍大学を休学し、留学先で授業を受けるための制度。在籍中の大学に申請することで単位認定を受けられる場合がある。留学可能な国、大学は在籍大学によって異なる。自分自身でエージェント等を利用し、留学先を見つけることも可能。

※留学先の学費を支払う必要がある。

—その他の単位認定・学位取得パターン—

・編入制度

海外のコミュニティカレッジ（日本で言う短大や専門学校に近いイメージ）などで取得した単位を、海外の四年制大学で引き継ぎ2年次や3年次に編入し学位を取得できる制度。

※四年制大学に始めから入学するより4年間トータルの学費を安く済ませることができる。

※アメリカやカナダ、マレーシアで一般的。

・ダブルディグリー（Double Degree）

在籍大学とは別に、在籍大学とは異なる国にある大学で一定期間（1～2年程度）通学することで、最終的に二つの学位を同時に取得できる。

※在籍大学の学費のみを支払う場合と、両方の学費を支払う等の場合があるため確認が必要。

・ジョイントディグリー（Joint Degree）

複数の大学が共同でプログラムを運営し、連名で学位を授与する。

※在籍大学の学費のみを支払う場合と、別途費用を支払う等の場合があるため確認が必要。

【取得できる学位の種類】

海外大学で取得できる学位は、日本と同様にいくつかの段階があります。

・ 学士号 (Bachelor's degree)

一般的な学位。

- BA (文学学士)

- BSc (理学学士)

- BBA(経営学士)

- BEng (工学学士) など

在学期間はアメリカで4年、イギリスやオーストラリアでは3年が基本

・ 準学士号 (Associate degree)

アメリカのコミュニティカレッジなどで2年間で取得が可能。日本でいう短期大学、高等専門学校、一部の専門学校に相当。その後、四年制大学へ編入し、学位を取得することで、総合的に学費を安く抑えられる。(アメリカでは一般的な方法)

・ 修士号 (Master's degree)

学士号取得後に進学可能。1～2年で取得でき、MBA (経営学修士) や MSc (理学修士) など多様。博士進学を前提とした Research Master(MRes)や MPhil と呼ばれる修士課程の学位もある

・ 博士号 (Doctor's degree)

研究分野での専門性を深める最高学位。論文や研究成果が求められる。

国や専攻によって異なるが、イギリスなどでは2～3年、アメリカでは3～5年以上かかるのが一般的で、PhD (哲学博士)、EdD (教育学博士)、MD (医学博士)など多様。

—日本での評価…就職や進学に活かせるのか?—

海外で取得した学位は、日本でも原則として「学士号」「修士号」「博士号」と同等に扱われます。特に世界大学ランキング上位校や英語圏の学位は、就職活動においても評価が高い傾向があります。

また、大学院進学や資格試験の受験資格にも有効である場合が多いため、将来のキャリアに直結します。

【成功のための準備ポイント】

単位認定や学位取得をスムーズに進めるためには、以下の点を意識しておきましょう。

- ・ 将来の自分のキャリアをイメージし、必要な知識や学位を知る。
- ・ 志望大学の情報を調べ、希望の留学や学位取得ができるか確認する。
- ・ 費用面や将来の方向性など、家庭内で確認する。

・志望校の入学条件（学校の成績・IELTS/TOEFL 等スコア・推薦状など必要書類）を早めに把握しておく。

【まとめ】

海外大学での単位認定制度をうまく活用すれば、一つの大学だけでなく複数の大学で学んだことを生かし、効率的に卒業が可能です。また、取得できる学位は国際的に通用するため、将来のキャリアや進学幅が大きく広がります。

「国内か海外か」で迷うのではなく、「自分の学びたい分野をどこで学び、どう伸ばすか」を軸に進路を考えることが大切です。